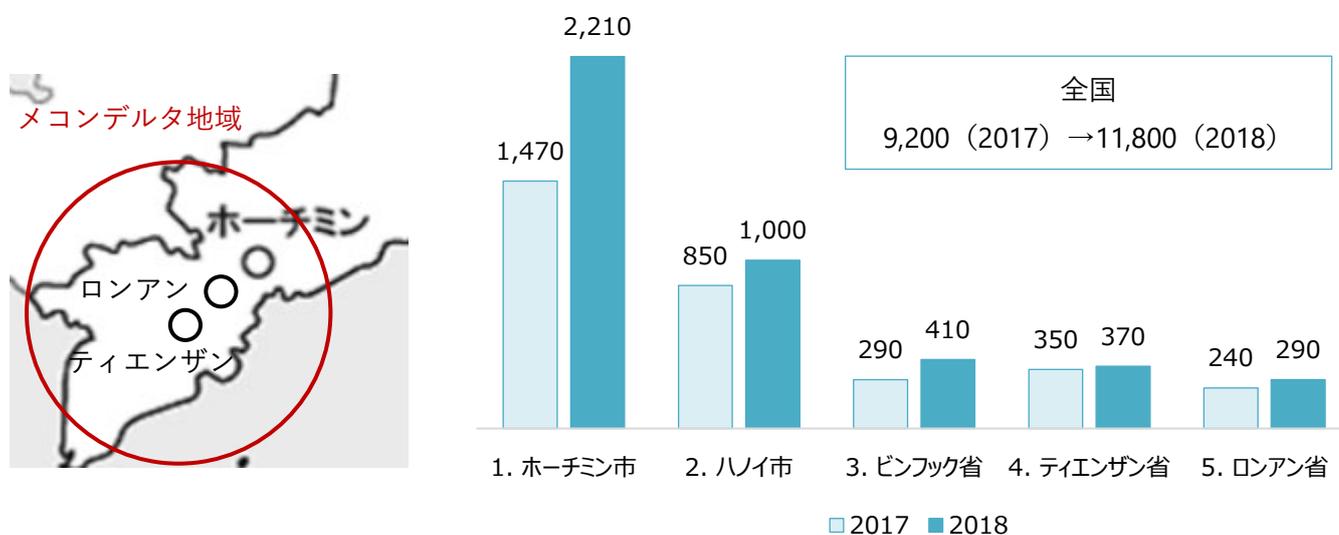


食品加工が活況、外資も大型 M&A で参入

ベトナム政府が定める長期目標として、2025年までに優先的に開発を進める産業の1つが食品加工分野で、ハイテク産業にも劣らない免税優遇が設けられている。

同分野の企業数は2016年から2018年にかけて約3割も増加して1万社近くとなり、その総売上高は300兆 VND（約1.5兆円）を超えた。食品企業が多いのはホーチミン、ハノイ、ビンフック、ティエンザン、ロンアンの5省市で、農業資源の豊かなメコンデルタ地域と2大都市周辺に集積している。大消費地に近いということは輸出入にも便利である。

食品加工会社数上位5省市（2017～2018年）



資料：B&Company

ベトナムは、米、野菜、コーヒー、胡椒、カシューナッツ、熱帯果物、魚介類などの有力産地で、近年の農林水産物の輸出額は世界16位まで上昇し、貿易黒字を維持している。また、ベトナム農業農村開発省（MARD）は、農林水産物の輸出額が2020年の約410億USDから2025年までに約510億USDに達すると想定している。特に注目されるのは単なる産地や消費地としてではなく、加工拠点としての役割である。例えば、日本産の魚をベトナムに輸出し、加工してから日本や米国に輸出するなどグローバルでのバリューチェーン構築が起ころつつある。ベトナム国内需要を目指すか、加工拠点への着目なのか狙いは企業により異なるだろうが、いずれも大きな成長市場と考えられるだろう。国内需要が拡大するなかで高付加価値品に対する需要の高まりを捉えようとしたものだろう。政府から見ると、同産業の背中を押すのは世界の食糧庫としての競争力への期待の表れといえる。

2018年には、食品加工会社のうち外資100%が約400社（2016年より20社増加）、合併会社が80社（同微増）で、2019年1月までの同分野FDI累計で112億USD、717件となった（MARD：2019年）。近年のM&A事例としては、CJCJ（韓国食品大手）がOng Kim（野菜・果物加工）、Cau Tre Processing（同）などの株式を取得、Kido Group（食品大手）が月餅などの菓子で有名なBinh Duong Kinh Doの株式100%を4.6億USDでMondelez International Group（米国）に譲渡、Vinamilk（乳製品大手：時価総額約95億USD）が自社株式の

20%を Fraser & Neave Group（シンガポール）に譲渡、など大型案件が活発だ。

今のところ、タイ、台湾、マレーシア、韓国、中国からの投資が主で、加工技術は国際水準を満たすものの決して高くはない場合が多いようだ。そのため、政府は日本、米国、オーストラリア、EUなどの先進技術国からの投資増加を期待している。日越両政府は禁止品目解除などの環境整備を進めている。

コロナ禍の2020年にも食品加工産業は強い成長を続けた。内外需いずれも有望で、魅力的な投資分野として発展していくことは間違いなさそうだ。

参考資料

1. <https://dangcongsan.vn/kinh-te-va-hoi-nhap/no-luc-thuc-day-gia-tri-xuat-khau-nong-lam-thuy-san-572035.html#:~:text=Hi%E1%BB%87n%20nay%2C%20Vi%E1%BB%87t%20Nam%20%C4%91%E1%BB%A9n>
2. http://agro.gov.vn/vn/tID27432_Nganh-che-bien-thuc-pham-tang-truong-nhanh-cua-Viet-Nam-thu-hut-su-quan-tam-cua-dau-tu-nuoc-ngoai.html
3. http://agro.gov.vn/vn/tID27432_Nganh-che-bien-thuc-pham-tang-truong-nhanh-cua-Viet-Nam-thu-hut-su-quan-tam-cua-dau-tu-nuoc-ngoai.html
4. <http://daidoanket.vn/kinh-te/cong-nghiep-che-bien-thuc-pham-hut-von-dau-tu-tintuc455021>